

# 写真で知る浪岡の今昔

## 28、29日 青公大生が「懐古展」

地域の関心を集めた経験があり、19年からは浪岡地区の歴史や文化を学んでいる。

写真展を企画したのは、足達 足達ゼミでは、2018年にも健夫准教授(52)のゼミ生たち。同様の写真展を三沢市で開き、

同地区は旧青森市との合併15年を迎え、来年3月には自治区としての機能を終えることから、節目のイベントとして懐古展を企画。4年生を中心に、旧浪岡町時代に発行されていた「広報なみおか」の掲載写真から昭和30～50年代の60枚を選び、原版をスキャンしてA4判でプリントした。60枚のうち15枚は、学生が現場に向いて同じアングルから撮影した現在の風景も並べるほか、住民への聞き取りを基に作成した説明文や地図なども添える。

企画に携わった地域みらい学科4年の氏家瑞姫さん(22)、藤澤季莉乃さん(21)の2人は「地元の人たちの話を実際に聞くことで、浪岡のことをより深く知ることができた。大学4年間の集大成として頑張りたい」と気合十分。

指導した足達准教授は「浪岡は、青森市内のどの地域にもない独特の歴史や文化がある。さまざまな世代の人たちに見てもらえれば」と期待を寄せた。

開催時間は、28、29の両日も午前10時から午後6時まで。入場無料。

が企画したもので、過去の写真と同じアングルで撮影した現在の写真を並べるなど、工夫を凝らした展示となる。学生たちは「浪岡の魅力を再発見してもらおうきっかけになれば」と意気込む。(成田亮)

青森

青森市浪岡地区の懐かしい写真を集めた企画展「なみおか懐古展」が28、29の両日、JR浪岡駅併設の市浪岡交流センター「あびねす」で開かれる。青森公立大学経営経済学部地域みらい学科の学生たち

## 交流センター「あびねす」 魅力再発見して



足達准教授(左端)のアドバイスを受けながら、「なみおか懐古展」で展示する写真を確認する学生たち